

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー) です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「大切」「大事」を取り入れた事業所理念を礎にして住み慣れた地域を外出したり、家族・ボランティア・馴染みの仲間に支えられ、自分らしく生きていく支援をしている	独自の理念「私の大切なあなた、あなたの大事な私になりたい」を毎日の朝礼、終礼、ミーティングを通して意識づけをしている。理念を具体化するため「排泄・食事・入浴」について3年間をかけて見直し中である。昨年度の「排泄」に続き今年度の目標を「食事」におき、法人の「食を考える委員会」にも職員が参加し、月2回のアンケートをはじめ改善に向けて積極的に取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	出入りをする地域の店の方や、散歩・買い物等で外出することによって交流が図れるよう努めている	地域の自治会に加入し自治会費を納め地域のお祭り等にも参加している。隣の公園の清掃も自主的に行っている。幼稚園児や職場体験の中学生、ハーモニカ演奏等のボランティアとも交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進委員会において検討されている。また、ボランティアに来てくださる地域の方によって認知症の理解や支援の方法を発信している		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的な運営推進会議によって情報交換や意見評価を頂き、サービスの質の向上に活かしている	会議は年6回開催され、委員には委嘱状が事業所から手渡されている。回ごとにテーマを持ち、入居者代表、家族代表、民生委員、市役所職員に加え、中学校教諭や警察関係者など地域代表としてテーマにふさわしい方が参加している。時には委員の方に併設施設との合同行事などに参加していただくこともある。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市町村担当者とは相談できる関係を築いている 定期的な会合以外にも納涼祭等の参加を頂いている	入居申し込み時に市の担当職員、ケアマネージャーと一緒に来訪し話し合っている。家族立会いのもとホーム内で認定調査も行われている。管理者が市主催の介護保険事業者連絡協議会に理事として出席している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修・身体拘束委員会への参加によって身体拘束を正しく理解できるようにしている。玄関の施錠は職員の見守りの方法を徹底し、一人ひとりのその日の状態を把握することで、日中開錠し自由な暮らしを支援している	入居者の離設経験から時間帯によっては玄関の施錠をすることもあったが、職員の話合いから日中は開錠している。運営推進会議でも話し合いが行われ、安全面を考えての理解ある発言を参加者から頂いている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	全職員が研修会に参加し、正しく理解できるようにしている。随時話し合い、現場において、虐待防止の徹底を図っている		

グループホームかじか庵・南棟

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修会に参加し、制度の理解と活用に向けて学んでいる 必要性については関係者と話し合い、権利擁護に努めている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所時に契約書重要事項説明書の内容をご利用者・ご家族に時間をとって十分に説明している ホールには契約書重要事項説明書を掲示してある		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進委員会にて各関係者からの意見を運営に反映させている またご利用者、ご家族の面会時には意見・要望をお聞きする機会を設けている	毎月の支払いは引き落としではなく必ずホームに来て頂くようにしている。来訪時は家族の思いなどを話しやすいように和やかな雰囲気作りに心がけている。家族会は年1回食事会を兼ねて行われており出席率も高い。併設老人保健施設との合同の新聞やホームからの「お知らせ」、入居者の日頃の暮らしぶりを撮った写真なども家族に送付している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	随時気づいたことを提案し、カンファレンスを経て管理者へ報告し、対応をいただいている	ユニットごとの会議は朝、夕、昼食後の時間を利用して行われている。2ユニット合同の会議は必要に応じて行われる。意見、要望は主任から管理者へと繋げている。管理者は給与明細を直接職員に手渡すなど職員一人ひとりと話す機会を折にふれ設けている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の不安軽減を図り、各自が向上心を持って働けるよう指導されている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外への研修参加機会がある また資格取得希望者への支援もされている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域の同業者と交流する機会をもち、情報や意見の交換があり、サービスの向上に取り組んでいる		

グループホームかじか庵・南棟

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初期においてはご利用者の安心を確保するため一コマ一コマにゆとりをもって傾聴できるよう努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族が不安に思っていることや求めていることに対し、ゆっくり話を聞き適切に対応できるようにしている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービス導入時にはご本人・ご家族が必要とされる支援を見極め、社会資源・他サービスを含めた対応をしている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人生の先輩として尊敬の念を持ち、その思いを基にして関わっている 日常生活の中でもご利用者に学ぶことは多く、その方の経験を活かせる場面を作ることを心がけている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時には随時日々の生活についてお話させていただいている また家族交流で外出されたときも様子をお伺いして、共に支える関係を築いている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人や場との関係が継続されるよう支援している 地域に暮らす馴染みの友人が定期的に訪問して下さる方もいる	併設老人保健施設と合同の納涼祭に入居者の友人の席を設けたり、入居者の同級生がボランティアとして来訪するなど入居前からの関係を継続・支援している。家族が迎えに来て2～3日家に帰ったり、お盆に日帰りで自宅に戻る方もいる。馴染みの美容院や入居前によく行っていた公園に出かけることもある。訪問調査日に法事で外出する入居者の姿も見ることができた。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入所前の生活スタイル・性格・レベルの差によりトラブルが生じやすいが、少人数の良さを活かし職員が調整役となり一人ひとりをサポートしている		

グループホームかじか庵・南棟

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用(契約)終了後も利用時の情報提供できる態勢がある		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご利用者一人ひとりの意向・希望のお話を伺う時間を設けている。意思疎通が困難な方は日々の生活状況からみでの判断やご家族からの情報にて対応している	入居時の本人・家族からの聞き取りで生活暦等は把握し日々活用している。また毎日の暮らしぶりから入居者の思いと職員の思いが重なることもあり、家族から入居者に聞いていただき、その思いを確認している。ふとしたきっかけに自分の気持ちを表わす入居者もいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時には生活歴・生活環境や馴染みの暮らし方・これまでのサービス利用の経過等の把握を丹念に行っている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	随時ご利用者・ご家族からお話を伺ったり、職員の日々の気づきを大切に、都度意見交換をし適切に対応している		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご利用者・ご家族・関係者の意向を汲みながら、職員が意見を交換し、現状に即した介護計画を作成している	担当職員が入居者や家族の思いを聞き、普段の気づきも加え、計画作成者と相談し介護計画が立てられている。職員はカンファレンスや申し送りノートで把握し情報を共有している。見直しは3ヶ月ごとになっているが状況や意向が変わった場合には新たなものに作り変えている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録・申し送りノート等による職員間の情報共有を促し、毎日のカンファレンスを経てそれらを活かしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	併設施設との連携がとれているので、支援・サービスを受けることができる(医療連携・行事・美容等)		

グループホームかじか庵・南棟

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のボランティアさんとの交流にて暮らしを楽しむ支援をしている(ハーモニカ・習字・会話等)		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医の受診は家族対応をして頂いている本人・家族の意向で主治医の往診を受けられる方もいる いずれも個々の状況に応じ、情報提供支援をしている	入居前からのかかりつけ医を継続している。必要事項を記入した書面を家族に渡し、口頭と書面でもかかりつけ医への情報提供を行なっている。予防接種や往診もかかりつけ医で行われ、併設施設の看護師による週1回の健康観察が行われている。また緊急時には24時間体制での協力関係が併設施設看護師との間に結ばれている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週二回の健康観察や随時相談指導を受けられる看護師から必要とされる情報提供指導がある		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院先との情報交換・相談等を経てご利用者が安心して治療を受け、退院後の受け入れ態勢ができています		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化及び看取りに関する方針を整えている	看取りについては運営規定に記載されている通り、「重度化及び看取りにかんする指針」を作成し最期まで支援を継続する体制が整備されている。入居時、本人や家族との話し合いをしている。法人内に老人保健施設や老人福祉施設があるので住み替えについても可能なことから個々での対応となっている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応マニュアルがある 毎日のミーティング・申し送り・都度の会議などご利用者の急変、事故発生時の対応確認をとっている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	併設施設との、合同の防災非難訓練を行っている	年2回併設の老人保健施設と合同で防災、避難訓練が行われている。直近では近隣の住民や民生委員などの参加を得て夜間想定で行われた。非常食や介護用品の備蓄もしている。	夜勤時の災害に備え、職員個々にどう行動したら良いのか日頃からイメージトレーニングしていただきたい。

グループホームかじか庵・南棟

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人間としての尊厳を傷つけないように又プライバシーについては共有化された情報の秘密保持の徹底を図っている	訪問時の昼食中、入居者が着ておられたベストに味噌汁をこぼされた。職員がすかさず近寄り「すみませんでしたね、すぐ洗濯しますので・・・」と入居者のプライドを傷つけないようにさりげないケアが行われていた。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	レベルの差があっても自己決定・希望が引き出せるようゆったりとした態度で働きかけるようにしている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の生活リズムの流れを基本として一人ひとりのその日の意向や状態を優先させるよう努力している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	一日を気持ちよく過ごせるよう、朝は職員と一緒に身だしなみを整えている ご利用者の好みを尊重しおしゃれを楽しめるよう支援している		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ご利用者と一緒に採ってきた畑の野菜を食材に使って調理をし食事を楽しみなものとなるようにしている	その日の献立が昼食前に両ユニットに放送され、耳、目、匂いと五感を通して食欲をそそいでいる。キザミの入居者も完食していた。献立の果物から安曇野で採れる果物や安曇米などの話しへと話題が盛り上がった。職員や家族などからの野菜・果物等の差し入れも多く食材からも季節を感じている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食後の食事量の記録をしている 水分量や栄養バランスは情報共有し、一人ひとりの対応ができるようにしている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアに携わっている 特に昼食後は時間をかけて義歯を洗浄し、舌苔の除去の対応をしている 歯科衛生士の指導も受けている		

グループホームかじか庵・南棟

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄のパターンや行為力を把握し、日中はトイレにて自然排泄できるよう支援している 誘導するときはさりげなく、周囲に悟られないよう注意している 夜間は歩行不安の方にはポータブルトイレの提供をしている	多くの入居者はリハビリパンツや布パンツを使用している。夜間の歩行が不安定になることからポータブルトイレを使用する入居者もいる。自分で意識できない入居者には排泄チェック表などから判断し職員が支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給と毎朝体操を行い便秘対策としている 排便の記録記入を行い自己申告のできない方や見逃してしまう方については様子観察をして、看護師の健康観察時に相談・指導を頂いている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	基本的には週2回の入浴日を設けている、複数入浴を希望される方はいない。一対一で会話しながらゆっくり入られている	お風呂場の窓の外が箱庭で贅沢気分を味わうことができる。入浴は週2回となっているが希望があれば何時でも入浴できる。入浴剤は毎回使用しており、季節の菖蒲湯、ゆず湯も行われている。入浴を拒む場合については翌日にしたり、清拭、着替え等に対応することもある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	習慣としてのお昼寝への支援や食後の休憩時間を設けている 就寝前にはゆったりとくつろげる時間を設け、職員が穏やかな声かけを心がけることで安心して眠れるようにしている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	ステーションに薬の詳細書を置き、一人ひとりの対応を把握している また変更があるときは都度その内容を確認している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴やレベルに応じて楽しみごとや気分転換をしていただけるよう機会を設けては支援している		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	歩行不安の方が安心して戸外へ出掛けられるよう少人数対応としている 家族交流で外出の協力を頂いている	庭続きの公園には毎日出かけている。季節に合わせて行楽地へも出かけ、ドライブ帰りの買い物では好きな物を選び、レジの横を通り雰囲気を楽しんでいる。日帰り家族と温泉に出かける入居者もいる。	

グループホームかじか庵・南棟

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	日常生活費としてお預かりし、管理している		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話はご利用者の意向があれば併設施設の公衆電話へご案内している		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	音量・温度・明るさについてご利用者一人ひとりの受け入れ方が違うので細やかに対応している 全体的に落ち着いた雰囲気となるように装飾物等に配慮している	台所、食堂、居間を兼ねた空間は広々として、天窓の採光も柔らかく明るい。一角には広い畳の部屋もあり、季節の花を飾り、入居者の習字や貼り絵、行事の写真なども飾られている。大きなガラス窓を開けると公園で遊ぶ園児や子供達の姿・声が間近に見えたり聞こえたりしている。ゆったりとした雰囲気の中でお茶を飲むことが入居者の楽しみとなっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	安心できる居場所の提供ができるように努力している		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	古くても使い慣れたタンスや以前に自分で作った小物、家族の写真をみて安心できる居室となるようにしている	床暖房の居室は透明ガラスで明るく、暖かい。ホームで作られたカレンダーに思い思いの色が塗られ、「私のカレンダー」となっている。自画像の色紙や家族の写真を飾ったり、折り紙で部屋を飾るなど一人ひとりの思いが込められた居室作りがされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの分かる力・できることを見極め必要な目印をつけたり物の配置に配慮している 職員で都度話し合い状態の変化による混乱・不安に対応している		